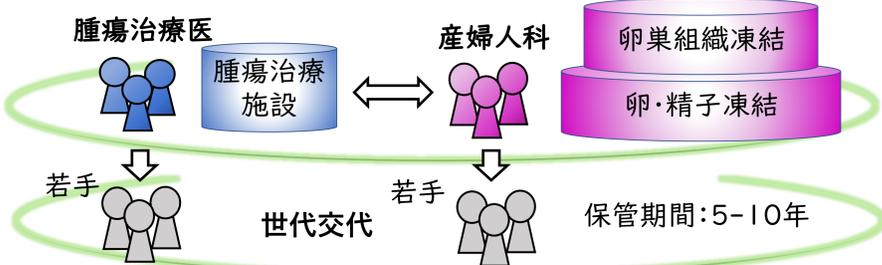


## 1. がん・生殖を知ってもらうには!?

**がん・生殖医療供給側の問題点**  
 -実施施設の地域格差  
 -専門分野の壁  
 -世代間で認識の差

**卵巣組織凍結実施はごく一部の施設**  
 ・三重大学・岐阜大学・名古屋大学  
 ・聖隷浜松病院・聖隷三方原病院  
 ・諏訪マタニティークリニック

異なる施設: 地理的な距離 異なる専門分野; 相互理解



他科、多施設、広い世代に  
知識を伝えるにはどうすればいいか?

## 2. Web会議ツール: Zoomを使う

**zoom** ・コロナ禍で急成長したWeb会議ツール  
 ・日本ではシェアNo.1

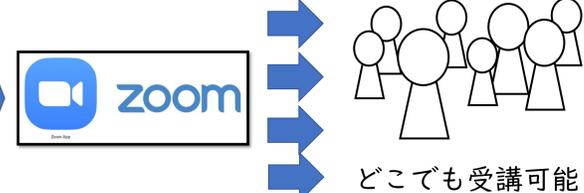
■Zoomによりセミナーの映像を配信すれば、誰でもどこにいても受講が可能。

プラン詳細

	基本	プロ	プラグインでウェビナーを選択する
価格	無料	¥ 2,000 /月/ライセンス	参加者 100人 ¥ 5,400 /月/ライセンス
人数	100人	100人	参加者 500人 ¥ 18,800 /月/ライセンス
時間	40分	無制限	参加者 1,000人 ¥ 45,700 /月/ライセンス
その他		録画	参加者 3,000人 ¥ 133,100 /月/ライセンス

セミナーの準備段階から、企画会議もすべてZoomで行った。一か所に集まる必要がないので、他県のメンバーとも頻りに緊密に連絡しあうことができた。

## 3. 第1回東海北陸若手がん・生殖セミナーを開催!!



@名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂  
 会場 + Zoom = ハイブリッド開催!  
 参加費: 無料!!

目的: がん・生殖の知識を学び、広める。  
 若手同士が横のつながりを広げる。  
 地域間の違いを学ぶ。

講演内容

### ◆ 専攻医セッション【第1部 がん・生殖入門編】

- 座長 名古屋第一赤十字病院 斎藤愛先生
- ① がん・生殖を前提とした不妊治療の特徴  
三重大学 矢嶋秀彬先生
  - ② 乳がんの一般的な治療  
岐阜大学 青島友維先生
  - ③ 乳がん患者における妊孕性温存  
名古屋大学 藤本裕基先生

専攻医を指名して、勉強した内容を発表してもらう  
 ● 次世代のリクルート



### ◆ 若手セッション【第2部 各施設におけるがん・生殖医療】

- 座長 三重大学 西岡美喜子先生
- ④ 三重県でのがん・生殖医療について  
三重大学 阪本美登先生
  - ⑤ 岐阜県でのがん・生殖医療について  
岐阜大学 坊本佳優先生
  - ⑥ 名古屋大学医学部附属病院の現状の取り組み  
名古屋大学 三宅菜月先生  
～パネルディスカッション～
  - ⑦ 日本がん・生殖医療学会認定ナビゲーター制度  
金沢大学 小野政徳先生

卒後10年前後の産婦人科専門医が各県の取り組みを紹介する。症例提示とパネルディスカッションを開催。  
 ● 診療実践の共有



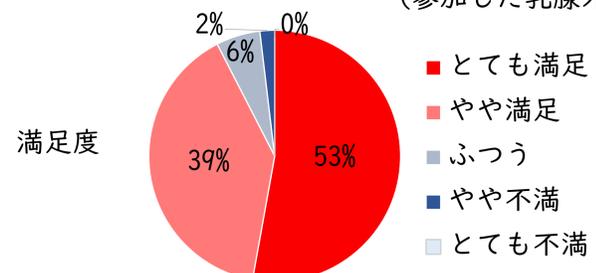
## 4. 参加者感想「勉強になった!」

とても満足、やや満足

- 1) 地域特性について  
他県他施設の現状を知れた。実際の診療流れを知れた。
- 2) 知識について  
専門外の乳癌や妊孕性温存について、概略からポイントまで初心者でも分かり易かった。  
症例検討があり具体的だった。
- 3) 運営面について  
講義が少し長かった。ディスカッションが全く聞こえなかった。

やや不満

乳がんの治療の内容が最新でない。HBOCの視点が入っていない。  
 (参加した乳腺外科医のご意見)



### Zoom参加者の感想(複数回答・件)

気軽に参加できた	39
勉強になった	22
トラブルはなかった	15
音声が聞こえにくかった	22
Zoom操作が難しかった	2

参加方法

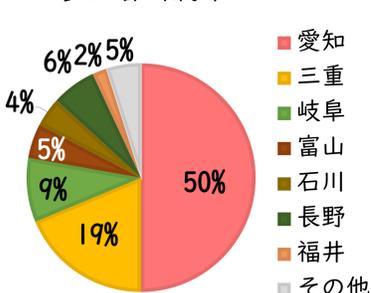
参加方法	件数	割合
会場	29人	20.9%
Zoom	110人	79.1%
次回はいずれか		
会場参加	19件	35.20%
Zoomで参加	43件	79.60%
どちらでもない	2件	3.70%

## 5. 成果「つながる」「学ぶ」

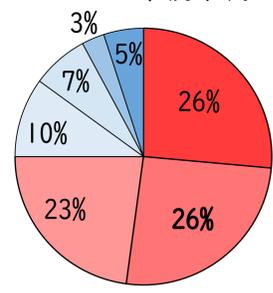
- Web会議ツールやSNSの発達により、誰もが簡単に遠隔で学ぶことができる時代になった。がん・生殖の実施には県単位で格差があり、先行して実施している施設の症例や患者受診のシステムを知ることによって、がん・生殖医療を提供できる地域が増えると期待できる。
- 参加者の年次は15年目までが75%を占めており、若手医師に伝えることができた。また、非ART施設からの参加が多く、潜在的ながん・生殖への高い関心が示唆された。
- 専攻医と10年目前後の産婦人科医が講演するという形式を採用した。発表者は確実にがん・生殖医療にコミットするので、若手のリクルートとして有効である。
- 参加者の有益性は、無料で、自宅や職場で講演を聞くことができる点である。受講者の満足度は高かった。各県の特徴を比較することで、実際に妊孕性温存の希望があった場合の受診の流れを確認することができ実践的だった。
- セミナーを通じ他大学の若手とネットワークを作ったことで、多くの人に知識を提供し、患者を取りこぼさない環境づくりに貢献していきたい。

参加者情報 <参加者総数=144人 会場:31(21.5%), Zoom:113(78.5%)>

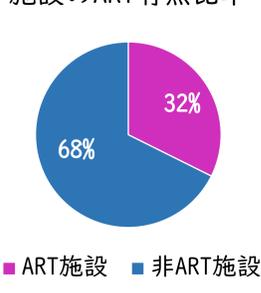
参加者所属県



卒後年次



施設のART有無比率



参加の経緯 (複数回答可)	件数
同僚や友人に誘われて	40
チラシを見て	10
GPOFs メーリングリスト	2
Facebook	1

参加の動機 (複数回答)	件数
妊孕性温存の症例を経験したから	26
生殖医療に興味がある	39
遺伝医療に興味がある	18
なんとなく	5
がん専門で妊孕性温存に興味がある	1

**Get Access!**

- ・セミナーの内容は、YouTubeで公開中!
- ・気軽にのぞいてみてください!



予告

- 第2回セミナーについて
- 2021/11/14 (予定)
- ハイブリッド開催
- 乞うご期待!